

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 26 年 3 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 3 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,357 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）4.5%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,906 円（伸び率 4.3%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,568 億円（伸び率 1.1%）、薬剤料が 4,779 億円（伸び率 5.7%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 604 億円（伸び率 24.2%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤料種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,480 円	2.84 種類	21.7 日	89 円
伸び率（%）	+5.7	+1.5	+2.1	+2.0

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,911 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）218 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 972 億円（伸び幅 48 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 56 億円（総額 613 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~13）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,911 億円 （+218 億円）	21 循環器官用薬 （972 億円）	11 中枢神経系用薬 （613 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（487 億円）
0 歳以上 5 歳未満	47.3 億円 （▲1.11 億円）	44 アレルギー用薬 （18.9 億円）	61 抗生物質製剤 （11.9 億円）	62 化学療法剤 （6.84 億円）
5 歳以上 15 歳未満	127.8 億円 （▲4.66 億円）	44 アレルギー用薬 （68.9 億円）	61 抗生物質製剤 （17.9 億円）	11 中枢神経系用薬 （11.6 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,450 億円 （+22 億円）	21 循環器官用薬 （309 億円）	11 中枢神経系用薬 （274 億円）	44 アレルギー用薬 （192 億円）
65 歳以上 75 歳未満	946 億円 （+98 億円）	21 循環器官用薬 （295 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（143 億円）	11 中枢神経系用薬 （105 億円）
75 歳以上	1,341 億円 （+103 億円）	21 循環器官用薬 （366 億円）	11 中枢神経系用薬 （222 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（157 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,906 円（伸び率 4.3%）で、最も高かったのは石川県（11,165 円（伸び率 2.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,566 円（伸び率 4.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは山梨県（伸び率 7.1%）、最も低かったのは新潟県（伸び率 2.1%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 604 億円（伸び率：24.2%、伸び幅 118 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	5 1. 2 %	-
薬剤料ベース	1 2. 7 %	+ 1. 9 %
後発品調剤率	5 7. 2 %	+ 4. 4 %
（参考）数量ベース（旧指標）	3 3. 2 %	+ 3. 8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+24.2%	+31.8% (70 歳以上 75 歳未満)	+10.2% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.7%	13.7% (65 歳以上 70 歳未満)	7.3% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~39）

年齢区分 （→P.36~40）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	535 億円 （+105 億円）	21 循環器官用薬 （134 億円）	23 消化器官用薬 （94 億円）	44 アレルギー用薬 （68 億円）
0 歳以上 5 歳未満	4.32 億円 （+0.48 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.39 億円）	61 抗生物質製剤 （1.19 億円）	44 アレルギー用薬 （0.94 億円）
5 歳以上 15 歳未満	12.51 億円 （+1.78 億円）	44 アレルギー用薬 （6.97 億円）	61 抗生物質製剤 （2.41 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.63 億円）
15 歳以上 65 歳未満	202 億円 （+33 億円）	44 アレルギー用薬 （45 億円）	21 循環器官用薬 （44 億円）	23 消化器官用薬 （29 億円）
65 歳以上 75 歳未満	133 億円 （+31 億円）	21 循環器官用薬 （44 億円）	23 消化器官用薬 （25 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（15 億円）
75 歳以上	183 億円 （+39 億円）	21 循環器官用薬 （46 億円）	23 消化器官用薬 （40 億円）	11 中枢神経系用薬 （26 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	847 円	1,164 円（岩手県）	669 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+24.0%	+33.4%（山梨県）	+17.7%（岩手県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	51.2%	66.5%（沖縄県）	42.4%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	12.6%	16.6%（鹿児島県）	9.6%（徳島県）
後発医薬品調剤率	57.2%	70.4%（沖縄県）	49.6%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	33.2%	45.4%（沖縄県）	27.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

(1) 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 26 年 3 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。

(2) 表章期間

- 平成 16 年 10 月調剤分からデータは収集しているが、伸び率の分析を主眼としているため、統計表上の表章期間は平成 17 年 10 月以降とした。